

鹿児島市感染症情報

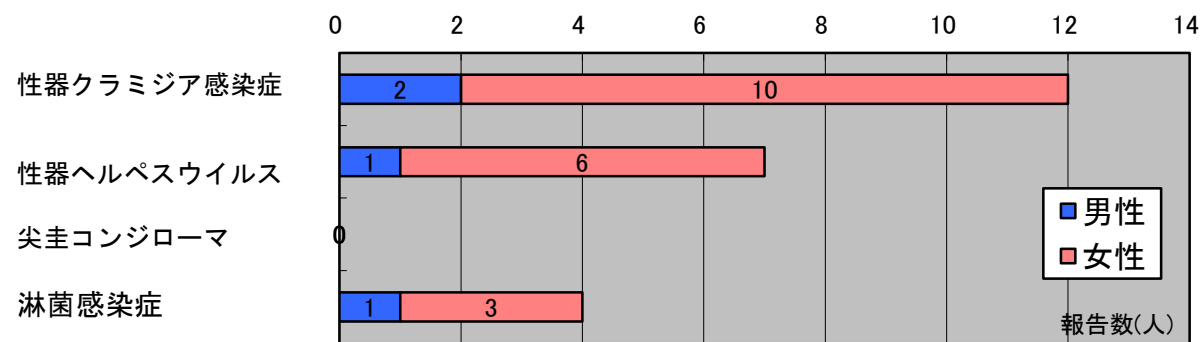
発行元：鹿児島市保健所

ホームページ <http://www.city.kagoshima.lg.jp> >健康・福祉 >健康・医療 >流行疾患、感染症 >感染症の発生状況



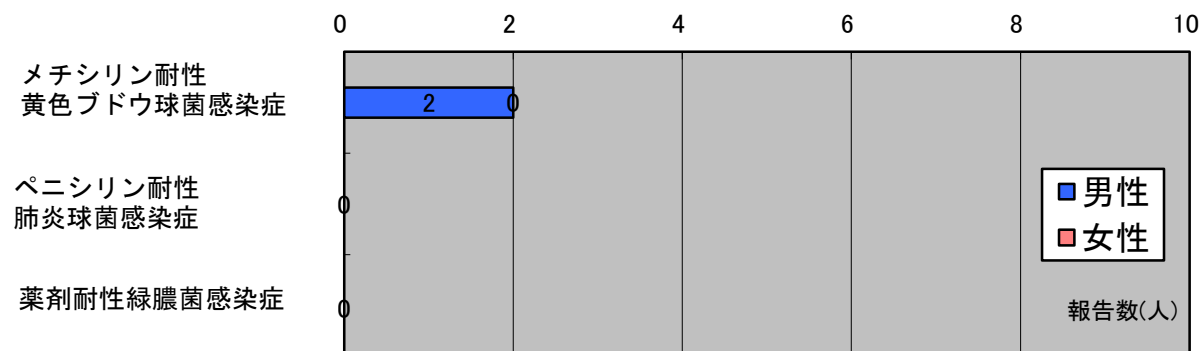
● 定点医療機関における性感染症の報告状況

期間中の患者報告総数は、前月より1人多い23人(男性4人・女性19人)でした。報告数が最も多かったのは、性器クラミジア感染症の12人で、男女の内訳はそれぞれ(男:2人、女:10人)です。



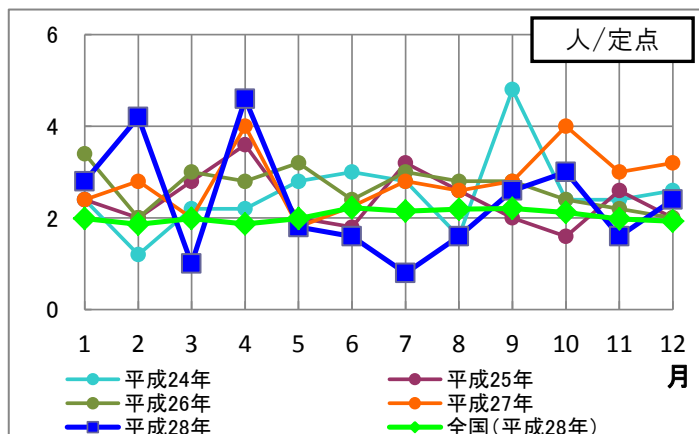
● 定点医療機関における薬剤耐性菌感染症の報告状況

期間中の患者報告総数は、2人で、内訳は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の男性、40代1人、60代1人でした。



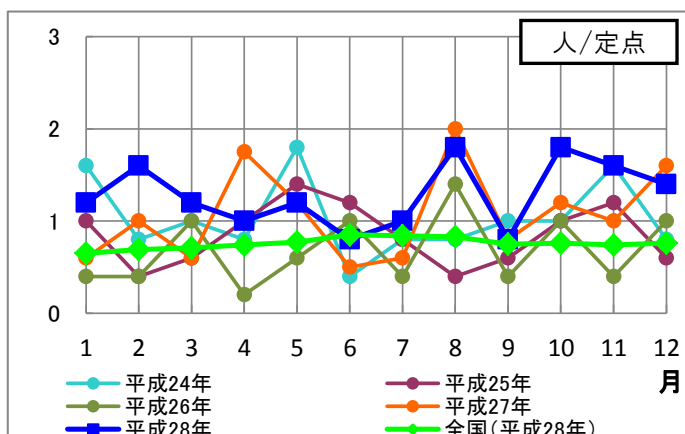
●性感染症の報告状況の推移 (比較)

【性器クラミジア感染症】

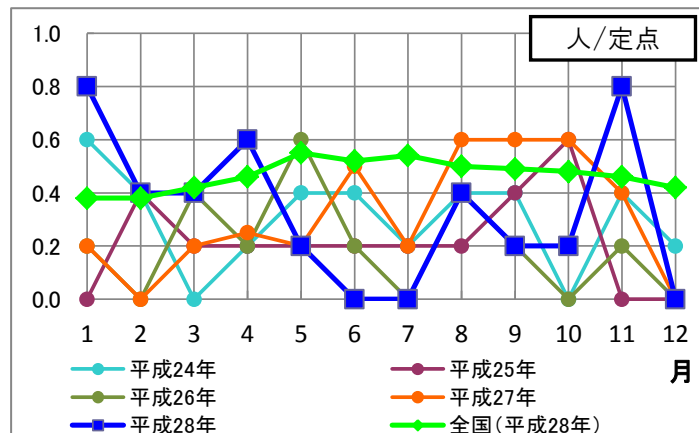


縦軸の値⇒報告数÷報告義務がある医療機関数
横軸の値⇒報告を受けた月

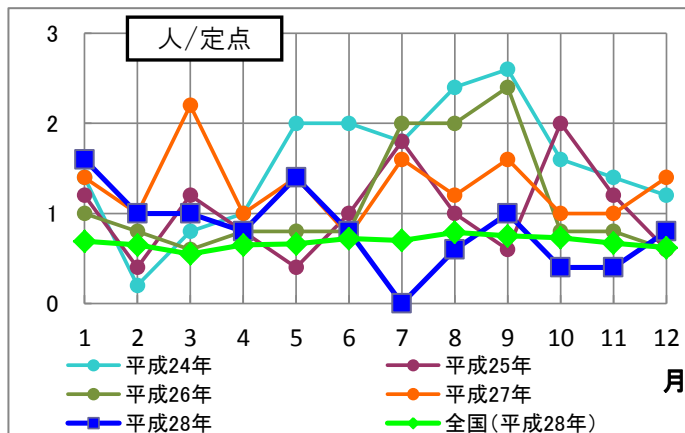
【性器ヘルペスウイルス感染症】



【尖圭コンジローマ】

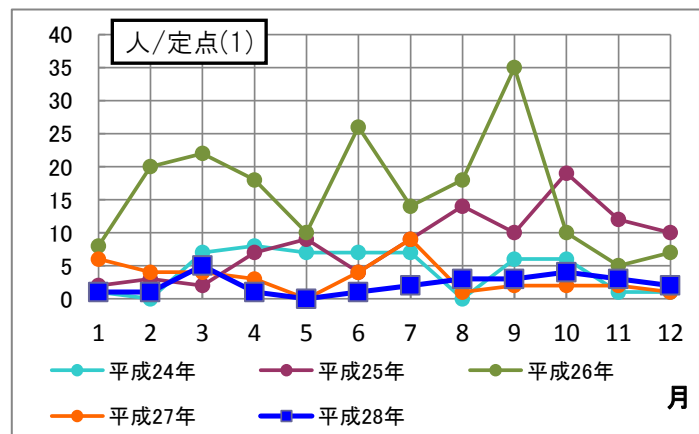


【淋菌感染症】

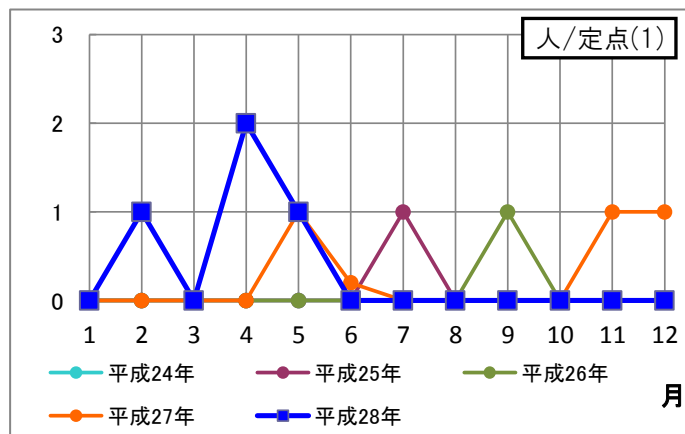


●薬剤耐性菌感染症の報告状況の推移 (比較)

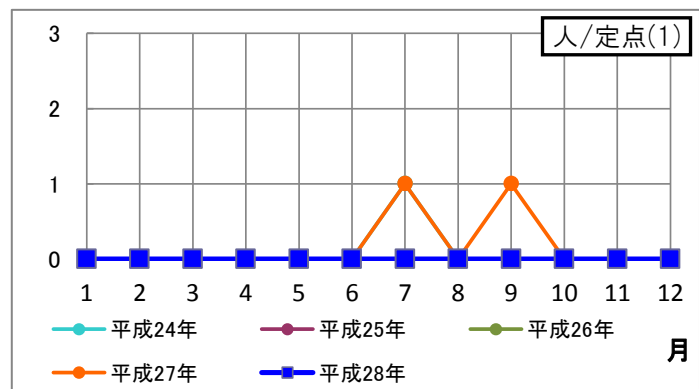
【メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症】



【ペニシリン耐性肺炎球菌感染症】



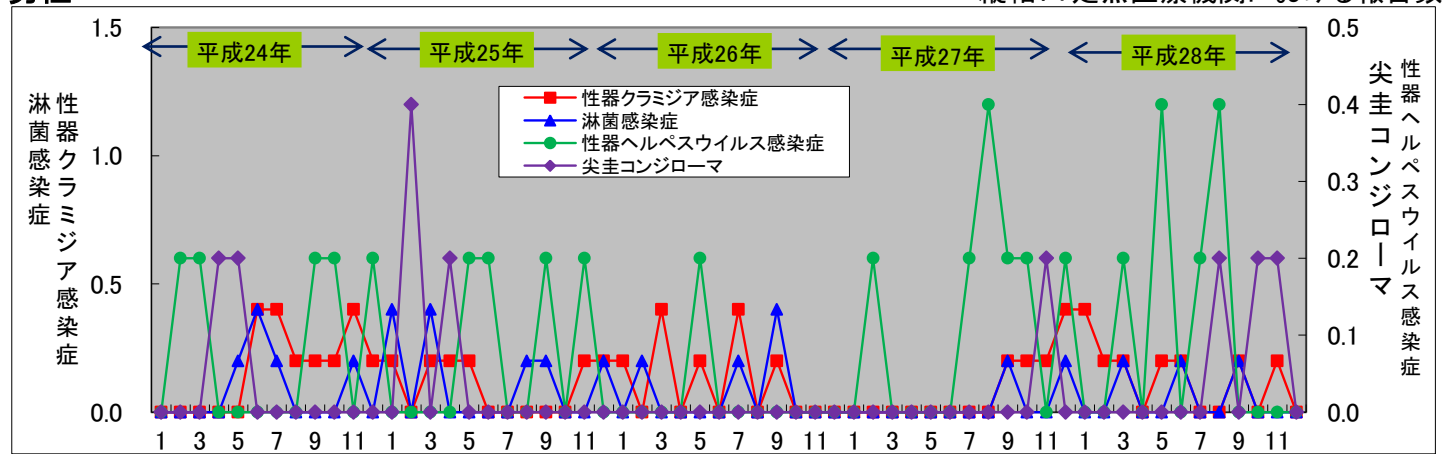
【薬剤耐性緑膿菌感染症】



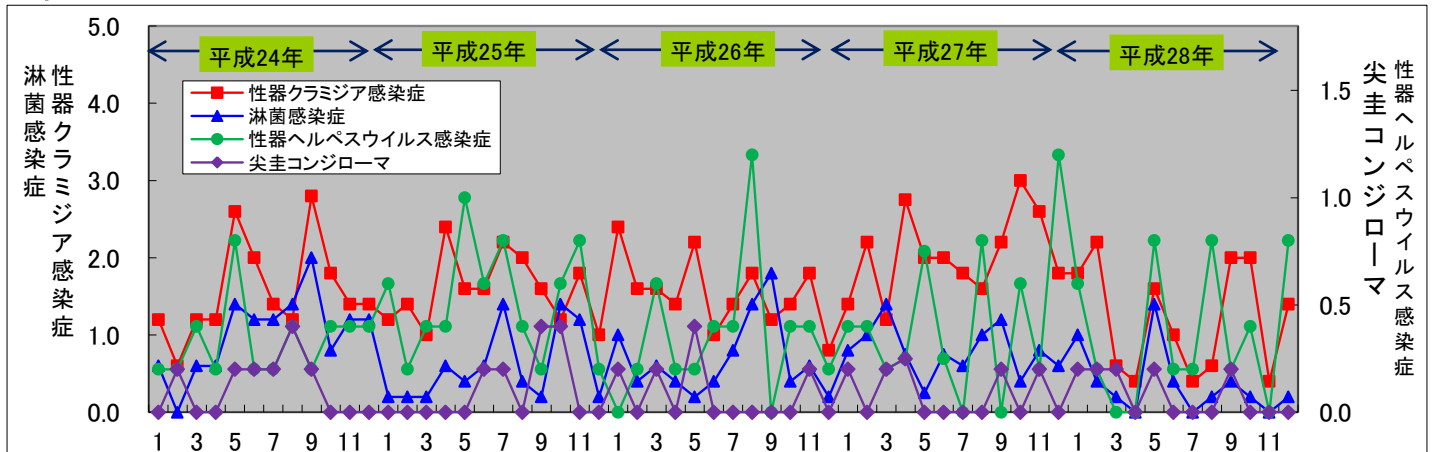
●若年層（15歳～29歳）における性感染症の年別・月別の推移

男性

縦軸：1定点医療機関における報告数

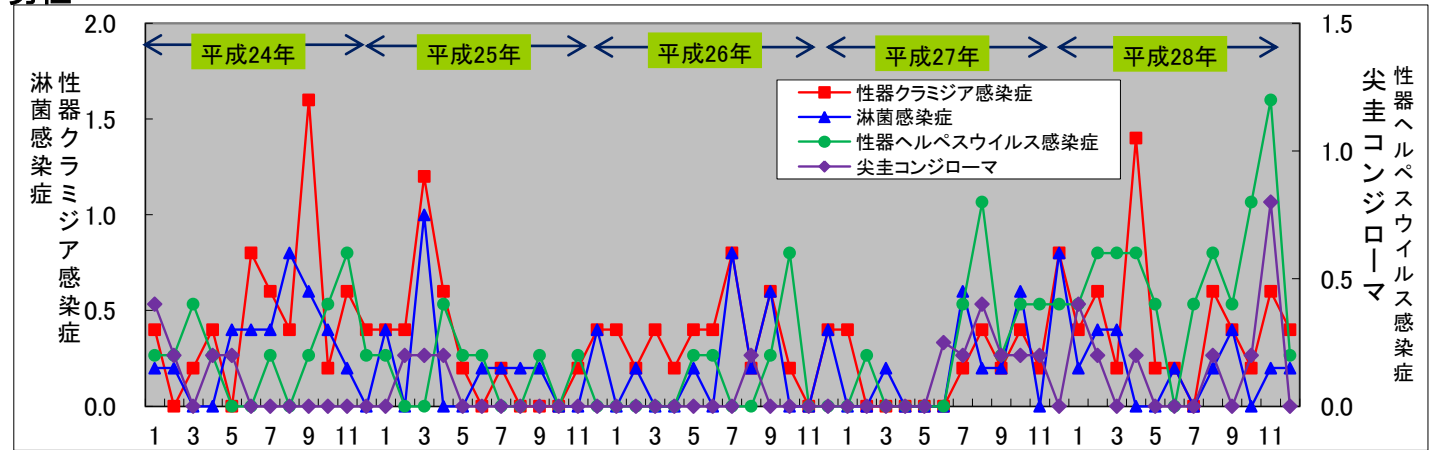


女性

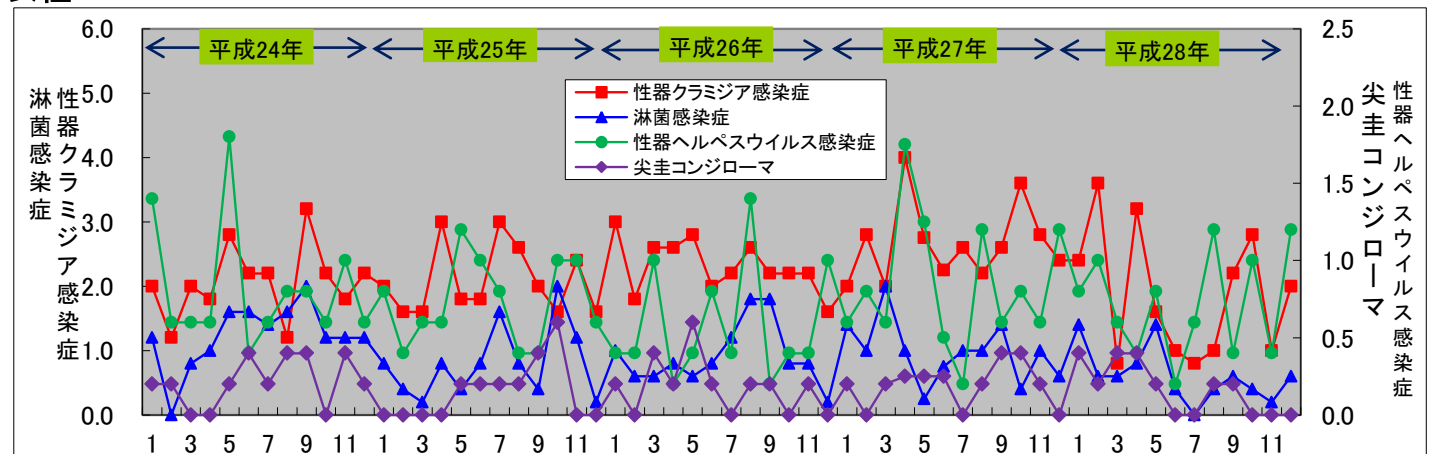


●全年齢層における性感染症の年別・月別の推移

男性



女性

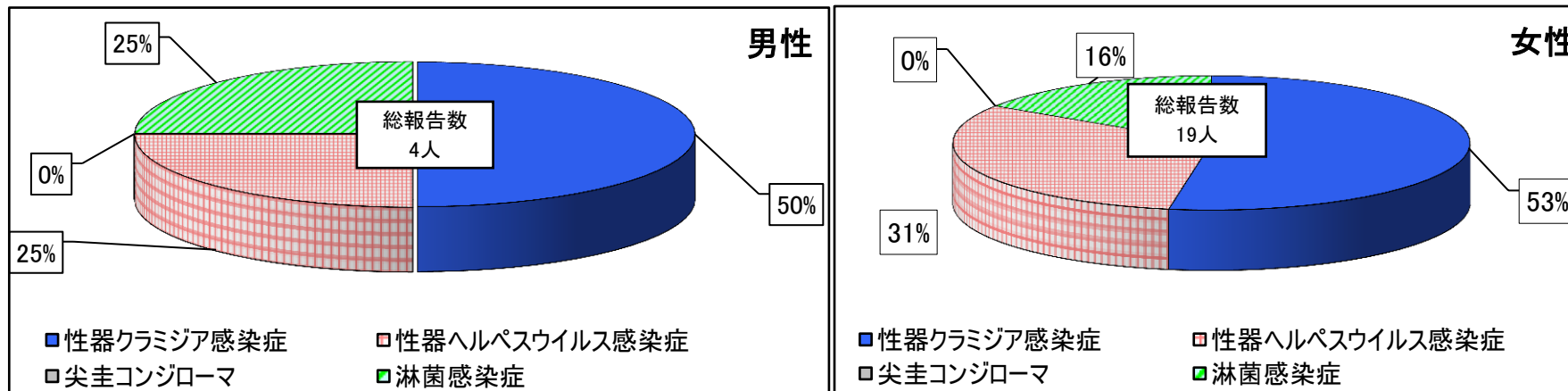


● 各疾病の報告状況

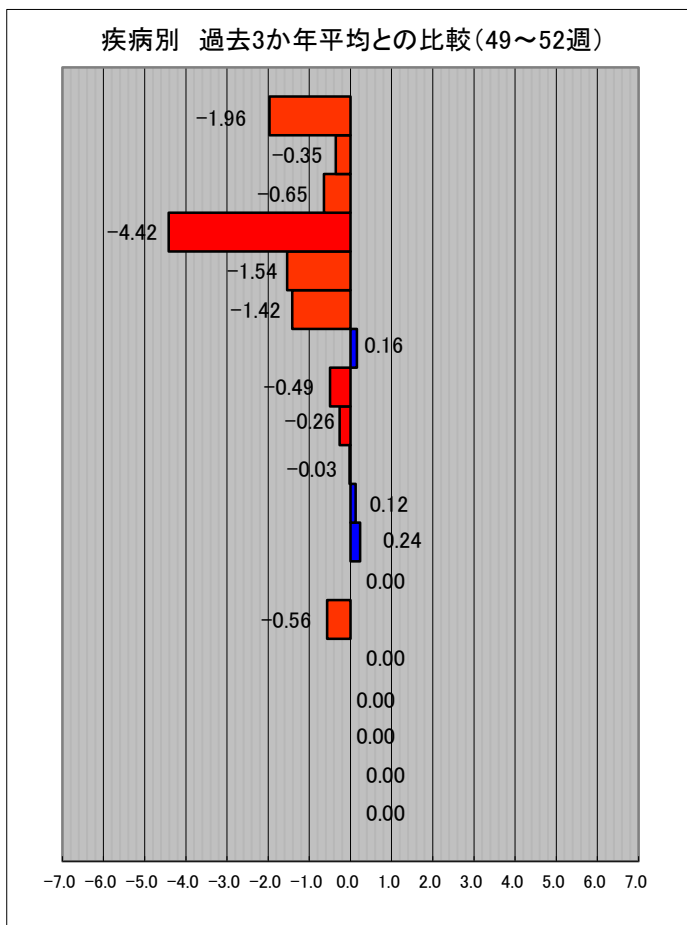
定点種別	前月比	疾患名	今月 (平成28年 12 月)				前月 (平成28年 11 月)				平成28年累計 男女合計 (報告数累計)				
			男女合計		男		女		男女合計			男		女	
			報告数	定点 当たり	報告数	定点 当たり	報告数	定点 当たり	報告数	定点 当たり		報告数	定点 当たり	報告数	定点 当たり
STD	△	性器クラミジア感染症	12	2.40	2	0.40	10	2.00	8	1.60	3	0.60	5	1.00	140
	▼	性器ヘルペスウイルス感染症	7	1.40	1	0.20	6	1.20	8	1.60	6	1.20	2	0.40	77
	▼	尖圭コンジローマ	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	0.80	4	0.80	0	0.00	20
	△	淋菌感染症	4	0.80	1	0.20	3	0.60	2	0.40	1	0.20	1	0.20	49
計 (前月比)			23 (+1)		4 (-10)		19 (+11)		22		14		8	286	
基幹	▼	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	2	2.00	2	2.00	0	0.00	3	3.00	2	2.00	1	1.00	26
	=	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4
	=	薬剤耐性 緑膿菌感染症	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0
計 (前月比)			2 (-1)		2		0 (-1)		3		2		1	30	

※「前月比」欄において、「△」は報告数の男女合計が前月比増加、「＝」は横ばい、「▼」は減少を示す。

性感染症の発生割合(12月)



平成28年12月(49~52週) インフルエンザ・小児科・眼科定点疾病の発生状況について



49~52週 1医療機関
平均患者報告数

インフルエンザ	2.48
RSウイルス感染症	0.48
咽頭結膜熱	0.85
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.15
感染性胃腸炎	14.10
水痘(水ぼうそう)	1.37
手足口病	2.48
伝染性紅斑	0.06
突発性発疹	0.42
百日咳	0.02
ヘルパンギーナ	0.25
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.33
急性出血性結膜炎	0.00
流行性角結膜炎	0.31
細菌性髄膜炎	0.00
無菌性髄膜炎	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00
クラミジア肺炎	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00

12月の感染症発生状況は、全体的に過去3か年平均と比較して減少しています。
しかし、例年インフルエンザは1月~2月にかけて、大きく流行する傾向がありますので今後も注意が必要です。
また、感染性胃腸炎についても、1医療機関あたりの患者数が高い水準で推移していますので注意が必要になります。

